

令和3年度 第1回 亀山市立図書館運営委員会 会議録

日時 令和3年7月28日(水)午後1時30分開会

場所 亀山市役所 3階 理事者控室

出席者  
教育長 服部 裕  
図書館運営委員長 櫻井 賢哉  
図書館運営委員 渡部 朱美  
図書館運営委員 田中 愛子  
図書館運営委員 川口 恭子  
図書館運営委員 中川 清裕

事務局  
亀山市教育委員会  
参事兼生涯学習課長 桜井 伸仁  
図書館 館長 井上 香代子  
図書館 副参事 小坂 博文  
図書館 主幹 服部 由美

■開会

【事務局】 第1回亀山市立図書館運営委員会を開催。配布資料の確認を行う。

1. あいさつ

【教育長】 教育長あいさつ

2. 委員の委嘱

【教育長】 委嘱状交付  
(教育長、退席)

3. 会長・副会長の選任

会長・副会長についてそれぞれ次の委員を選任した。

会長 櫻井 賢哉

副会長 田中 愛子

【会長】

みなさんの忌憚ない立場でのご意見をたくさん出してほしいとのことであるので、事務局からの提案に対し細かなところでも結構なので、ご意見を賜りたい。

駅前を通るとマンションの建屋工事が進んでおり、図書館も基礎部分ができ

ている。いよいよという機運が高まっている。事務局も熱心に討議され、普段の業務が大変なうえにコロナ禍の配慮、新図書館の建設・開設に向け、いろんな重圧の中で頑張っている。今日は、いろいろな報告書も出ているので、審議を深めていただきたい。よろしく願います。

#### 4. 報告事項

##### (1) 新図書館整備事業の進捗状況について

###### 【事務局】

事務局より報告

市の大きな事業ということで、主要事業に基づいて図書館事業を進めている。令和2年度の事業は、年度実績にあるように保留床の取得、サービス実施計画策定、郷土資料コーナーの展示設計を実施した。また、図書館整備推進委員会を3回、今後の新図書館の運営を見据えた市民ワークショップを2回開催している。また図書館フォーラムを開催したほか、先進市視察を行った。

今後の取組みとして、新図書館の管理運営や組織体制の具体的な検討とそれに伴う例規整備を進めていく。例規整備については、条例改正が必要となるが、予定として9月議会に条例案を提出するため、関係課と協議を進めている。また昨年度に引き続き、図書館フォーラムやワークショップを開催し、市民に対して図書館整備の進捗状況等を情報発信していく。

昨年度は、情報発信として、ニュースレターの全戸配布を行った。

###### 【会長】

今年も図書館フォーラムは予定されているのか。時期は秋口くらいか。

###### 【事務局】

予定しているが、日程は未定である。秋口は、昨年もコロナの影響があつてしまったので、今年もなかなか確定させづらい。ワクチンの接種状況もあり、少し後ろ倒ししたほうがよいかもしれないと考えている。

(ほかに質問はなく、報告を終わる)

##### (2) 令和2年度の図書館利用状況と令和3年度活動予定について

###### 【事務局】

昨年度の入館者数、貸出人数・冊数等の利用状況を報告。

昨年度は新型コロナの関係で4月20日から5月19日まで休館となり、そこから少しずつ図書館サービスを回復させた。そのため、例年よりもそれぞれ少なくなっている。今年度に入って、少しずつウィズコロナとして、利用者のご協力のもと図書館とのいいおつきあいをしてもらっているように感じている。特に夏休みに入って親子連れ等が来館されている。

図書館での活動および関連団体の協力を受けて開催しているイベント等について報告。

人数制限をしておのイベント開催のため、参加人数としては少ない。新たな取り組みとして、図書館まつり月間や図書館職員による市民ワークショップを開催した。職員の自信につながったのではないかと感じている。図書館まつり月間

中には司書によるミニ講座も実施した。外に向けてサービス発信をしていく一歩になったのではないかと考えている。

蔵書数については、新図書館に向け除籍を進めている。かなり古い情報のものや傷んでいるが修理されていないものも少なくはないと感じている。買い替えるのか除籍して最新のものをデータ化するのかなど司書を中心に検討をしている。新図書館に何冊持っていくのかについて、数字として出せていない。新規購入のための予算も検討している状態である。ある一定数は確保しつつ、開架の中で恥ずかしくないような図書構成を考えたい。

執行計画の中で若干遅れているものもあるが、年間として着実に進めて参りたい。

その他として館内で実施したテーマ展示、夏休みイベント等について紹介。

【会長】

何か意見はあるか。

【川口委員】

来年度以降で構わないので、蔵書数について、合計とパーセンテージを入れてもらいたい。

【事務局】

そのように対応する。

【会長】

事務局から蔵書の選定に対し、新図書館への移行について、場所は3倍になるが、手に取って見たいという本をいかに多く収集するか、現存の本をいかに活用するかという課題を挙げてもらった。これは一番大事であると思うが、県立図書館ではどうしているのか。

【中川委員】

なるべく今の本を活用されたいというのは当然のことだと思うが、気にかけているようにあまり古い本ばかり並んでいるのもよくないというのも確かにわかる。どれだけ新鮮なものを置くのかということも大事にしたほうがよい。あまりすかすかにしてしまうのもどうかと思うが、たくさん本が入れられるようにある程度余裕を持っておくことが大事である。こちらではそうでないと信じたいが、本がいっぱいでもう入れるところがないと言うと、もう買わなくてもいいと言う行政当局もあたりすとも聞く。ある程度入ってくるものを見越して、収集されるのがよいのではないか。県立図書館自体は、予算が全国で一番少ないくらいなので難しいところもあるが、古い本ばかり残ってしまうと来館される方も原因はそれだけではないと思うが減ってくるし、毎行っても新しい本がないということになってしまう。県立図書館もそうだったが、開館してしばらくの間は予算がしっかりつくが、それ以降はどんどん減ってしまうので、そこをいかにキープできるかが開館してからの課題である。もういいだろうとなると思うが、そこをいかに緩やかに減らしていくかが大事になってくる。

【川口委員】 それには、貸出数の実績が大事になってくるのではないかと。コロナ禍なので比較することはできないが、そこが一番苦勞している所だと思う。執行計画を見ていると、それぞれを少ない人数でこなしている。貸出が伸びるような仕事に力を入れられるようになったほうがよいのでは。書類や計画作成は必要だとは思いますが、もう少し貸出数とか利用者に喜んでもらえることに重点を置くことが大事だと思う。選書など学校司書の意見も聞いてもらえると、連携や協力関係が取れる。

【会長】 蔵書の問題は、学校図書館でも同様である。古い本が並んでいると興味が下がっていく。利用率は新たな課題だと思う。

【事務局】 1点追加報告である。昨年7月25日から図書除菌機を1台導入した。一日平均40回程度利用されている。一つの効果として、親子連れや子どもがよく使っている。利用者には本を大切にする教育につながるということを伝えている。その成果もあってか、回転数も増えている。

【事務局】 新図書館では、自動貸出機を導入する。来館者が職員と接することなく自分自身で貸出ができる。その作業が減った部分を違う業務に向けられるという考えのもとに整理していることを申し添える。  
(ほかに質問はなく、報告を終わる)

### (3) 亀山市図書館サービス実施計画について

【事務局】 3月に策定した計画である。取り組み内容について概略を説明。取組年度については、新図書館に向けて可能な限り先行して取り組む姿勢で考えている。個別に確認し、提案すべきところだが、時間の制約もあり、お目通しいただいて、後日でもよいのでご意見等をいただきたい。

【会長】 内容を見ていただいて、ご意見があれば事務局までお知らせいただきたい。

【委員長】 これまでの報告事項は、図書館だけでは進められないところもあるだろうが、今後も議論を深めながら業務を行っていただき、その結果についてこの委員会に報告を今後とも願います。

## 5. 協議事項

### (1) 令和2年度亀山市子どもの読書活動推進計画の進捗について

【事務局】 評価における目標値およびそれに対する亀山市立図書館含めた各部署の達成度の現状を報告。

成果指標が前年度に比較してどの項目も下がっている。コロナ禍でできる範囲で実施した結果の実績となっている。評価も目標とするものに対しての実績

評価であれば、4や5といった評価は出てこず、もっと低い評価となるという考え方もあるが、実際にできる範囲のことを行った結果の評価としている。まだまだ努力が必要な部分もあるので、それに関しては今年最終年度になるが、それぞれの部署でしっかり実施していくこととしている。

- 【会長】 何か意見はあるか。
- 【川口委員】 それぞれの項目に、いつからいつまで休館とか休校といった情報を入れてもらいたい。後々わかりやすいと思う。小学校図書館における児童1人あたりの年間貸出冊数は、119.4冊だと思う。この数字は小中の合計の数字なので確認して訂正してもらいたい。
- 【事務局】 学校教育課から提示された数字がこちらだったが、小学校だけかどうかは確認していない。確認して改めさせていただく。
- 【川口委員】 実績・進捗状況についても、教育支援グループに関する部分は訂正させていただく。
- 【事務局】 ご意見いただいた部分は再度確認させていただき、改めたものを提示させていただくので、了承いただきたい。
- 【田中委員】 子どもの読書環境づくりの中で、学びを支える学校図書館の充実の項目の評価が0となっている。この夏、学校の奉仕作業で本棚を作ってもらっているが、0なのか。
- 【川口委員】 毎年、学校の奉仕作業で作ってもらっているが、学校図書館のものを作ってもらうとは限らない。この夏には、2校で書架を作ってもらっている。0とはならないのではないのか。
- 【事務局】 こちらは、令和2年度の実績であるので、令和3年度に作成されたのであれば該当しない。実績はそれぞれ担当課から報告を受けており、予算をつけて実施したものはなかったとのことだった。こちらに実績としてあがってくるものがなかったなので、0という評価としている。
- 【会長】 いろいろな学校から予算要望があがってくるが、優先順位の10番以内に図書館関連の要望が入っていなかったのだろう。去年は神辺小学校が図書館の蛍光灯をLEDに交換した。学校の施設が老朽化しており、蛍光灯くらいしか図書館に予算を回せないのが現状である。それ以上に水漏れ、プール等の施設に予算が必要であり、実績がなかったということである。去年は特に消毒に割くことが多く、設備にまで手が回らなかった。0というのは一つの評価として、

今後、図書館機能に対して2とか3に優先順位が上がるように努めてもらいたい。

【事務局】 進捗状況について、この委員会に報告を今後とも願います。

## (2) 第3次子どもの読書活動推進計画の改定について

【事務局】

現在第3次計画を最終年度として実施しており、来年度以降新しい計画とするため改定を進めている。第3次計画が平成29年度から進められているが、この頃から比べると、社会情勢や状況がかなり変わってきている。そのような中で、亀山市の子どもたちがどのように育ってほしいか、読書が果たす役割、新図書館の開館に伴いどういったことをしていくべきかなど新たな課題が出てきており、今まで通りの計画をそのまま推進していくのではなく、新たな視点を入れた計画を作っていく。位置付けは、上位計画の関連計画となる。計画期間は令和4年度から8年度までの5か年とし、対象は0歳から18歳以下の子ども、実際に読書活動の推進を行っていく保護者をはじめ、教職員や保育士、行政職員等、団体等を対象とする。

第3期の成果と課題は、先ほどの報告にもあるが、成果は「あかちゃんタイム」の設定により気兼ねなく来館できる状況を整えられたこと、育児相談時や病院等での周知により幼少期からの読書活動の重要性を認識できるきっかけづくりとなったこと、図書館ボランティアの協力を得ながら実践をしていくことで、場の提供や他部署との連携を図ることができたことがあげられる。課題は、成果もあるが実現していない部分があること、ブックスタート事業やファミリー読書リレーなどに使用備品も含めた実施体制の見直しが必要な面がある。また、イベント等を実施しているが、イベント実施が本の貸出に結びつかない面もある。本の貸出が一概に多ければよいという訳ではないが、取り組みや読書活動の推進の中で、何を指標とするか工夫が必要となる。

また、地域による地域読書活動拠点の整備に取り組んでいく中、地域での読書活動の視点も進めていくことが必要であり、館内で安心して過ごせる居場所づくりなど、新たに検討すべき項目もいくつかある。現行計画を作成した時点と社会情勢も変化している。特に読書バリアフリー法施行や学校における学習指導要領の改訂、電子書籍の普及に伴う紙媒体にとらわれない読書の工夫や、家庭による読書格差解消、図書館とSDGsなどの新たな観点も加わっている。その視点も盛り込んでいくことになる。

めざす姿としては、今回も関連計画のひとつである、学校教育ビジョンのテーマを援用していく考えを持っている。基本方針は、「亀山市図書館サービス実施計画」の親子・児童機能に該当する部分をベースとし、方策は基本方針に合わせた形で示しているが、あくまでも概略の例示であり、実際の推進の際の方策は細かい部分で必要となる。まだまだ検討が必要な項目がたくさんあるので、ご意見をいただき、充実した内容のものを策定したい。

- 【会長】 何か意見はあるか。
- 【会長】 (6)新たに検討すべき視点にとして3点記載があるが、続く国、社会情勢等の変化は(7)なのか(6)の④なのか、どちらか。④となるのであれば、検討すべき視点とはまた違うように思う。国、社会情勢の変化を鑑みながら策定しなければいけない、このような課題があるということはわかるが、いかがか。
- 【事務局】 ご指摘いただいた内容については、現骨子案から本冊を作成していく際に、計画策定の背景と趣旨にも少し盛り込んである部分もあるので、そこに溶け込ませるなど工夫をさせていただきたい。
- 【会長】 推進のための方策であるが、3点あげてある。③の読書バリアフリーの推進と居場所としての図書館づくりは、③というよりは②のような気がするが、いかがか。項目として性格上違うように感じる。
- 【事務局】 居場所としての図書館づくりが親子だけではなく、どなたにとっても居場所になってほしいとの思いもあるので③と考えたが、子どもの読書を推進していく計画であるので、親子と考えるのであれば②のほうがふさわしいかもしれない。
- 【会長】 成果と課題の部分の表記について、あかちゃんタイムの部分の「来館できる状況を整えました。」は「来館できる状況に整えた。」に、「小さな子どもを持つご保護者・家族」は「小さな子どもを持つ保護者・家族」に修正をお願いします。
- 【川口委員】 ファミリー読書リレーは、以前届いた本が届くのは年子の家庭などでは仕方がないこと。本の更新が毎年ないということ、本が古くなっていると書いてもらった方がよい。以前読んだ本が届くのは避けられないことである。できるだけそうならないようにする方法はあるかもしれないが、いくら新しい本にしたところで届くのは届く。長年更新がないので、本やバッグが古くなっているというように表現方法を変えてもらえたらよいのではないか。更新については意識してもらっているようだが、莫大なお金がかかるので、すぐには難しい面もある。
- 【田中委員】 コロナ禍で子どもの精神が不安定になってきている。放課後教室などでも、外で遊べないから遊びたいと本を手にとることが少なくなっている。関図書館に新しい本を入れ替えてもらっているが、中川委員の意見にもあったように新しい本がないと亀山まで行くということになり、来訪者がどうしても減ってしまう。本館から関に持って来てもらうのであれば、その間に亀山に行くということになる。子どもたちも関小でも新しい本は新刊コーナーとして置いてあるものはボロボロになるまで読む。他にもいい本があると言っても古い本は読まな

い。子どもたちのタイムリーな話題というものもある。推進計画を立てるにあたって、予算をしっかりと立て、新しい本をいれてもらうのがよいと思う。

【中川委員】

お金が絡むことは書きにくいので、当たり障りのない書き方をせざるを得ないことが多いと思うが、根本的で中心となる大事なところなので、少しずつでも資料を新しくしていくということが書ければよいと思う。書いてしまったらやらざるを得ない。

【田中委員】

本の場所をいつも同じではなく変えてみることもよいかもしれない。同じところにあると目新しくないものが、違う場所にあると見つけられることがある。いつきても同じだとの中に新しい本があるのに見つけられないという子供の視点がある。職員は大変であると思うが、そういうこともあってよいのではないか。

【事務局】

目新しさは人の目を惹きつけるところである。新刊を毎週土曜に並べるが、そこを狙ってくる利用者も多い。その一方で、いつもの順序だてていつもの図書館であるという変わらない部分で安心する、居場所となっているという人もいる。例えば障害をお持ちの方だと、いつもの場所にお気に入りのコーナーや本があり安心するという声も聞く。そういった方も大事にしつつ、ベースは変わらないが少し昨日とは違うというような見せ方も大事だと思う。先日、実際にあったことだが、小学生の子どもが猫の本を探していた。猫のどのような本か尋ねると、育て方の本だということで、一般書のコーナーに案内した。子どもは子どもの本が置いてあるところしか行かないことが多い。ちょっと背伸びをしたところで、興味をそそる本が見つかったことで、とても感動してもらえた。レファレンスをしっかり受けることで、今までにいったことのないエリアへ誘導することができた。図書館員として力をつけていかなければならない部分であると感じたので、少し紹介させていただいた。

【会長】

目先を変えることも大切だが、いつもと同じ空間も大切ということである。買い物にしても知らない店だとどこに何があるかわからないが、いつもの店だと探しやすいし、どこに陳列されているとわかっている。逆に陳列が変わることで、新たなものが見つかることもある。なかなか難しいところである。

【事務局】

先日、川崎小学校の学校図書館へお邪魔した。学校自体が新しく、図書館もPOPでの紹介などうまくされていた。昼休みで20~30人がわっと来て、活気がある場所だと感じた。また、コロナ禍で社会見学に来ることが難しいので、新図書館についていろいろな疑問もあるだろうと関小学校と井田川小学校に説明に向いた。90分くらいの時間であったが、持参した本の目新しさもあって、食い入るように見ていた。図書館から持っていった本を学校にしばらく置いてもらうというアウトリーチも面白いと感じた。新しい図書館ができると井田川



からだとすぐ行けるなどの声もあった。いろいろと制約もあるかもしれないが、新しい図書館に期待してもらえるのが、小学生でも同じであった。今の図書館は図書館で工夫してやっていくが、新しい図書館にも来てねと話したところである。

【会長】

学校の図書館も、図書ボランティアの人の手で見出しやキャッチコピーを付けてもらうと、また本が輝いて見えるという側面がある。子どもは特にそのような嗅覚に優れている。ちょっとしたことでつながりができるのではないかと思う。数が増えればよいが限度があるので、工夫を加えながら、できるところは予算化を図っていく。最初だけでなく、長くつづくようにしないといけない。開館当時だけでなく、その後が維持していかなければならない。これらを踏まえた計画策定をお願いしたい。

【会長】

その他、何か質問等はどうか。

【事務局】

現在、コロナ対応として学習室の使用を、図書貸出券を持っている人に限り、午前または午後の2部制として運用している。44ある席数を22席まで減らし、図書館としては、市民優先の利用としている。夏休みだと利用が多いだけでなく、市外からの問い合わせもあるが、当面の間は従来どおり市民優先で対応したい。図書除菌機は導入したが、返却本の拭き作業を行うことでより安心を得ている市民もみえる。かなり負担となっているが、市民の読書活動を少しでも心地よくしてもらうため、継続していく。学校図書館との連携としては、小規模小学校へ図書館の本を貸出する特別団体貸出を予定しており、作業を進めていることを申し添える。

15時20分 終了